

平成 26 年度 予算施策評価表

様式1

施策名	自然環境と生物多様性の保全			予算施策コード	kk16	
担当部局名	県民環境部 環境局	自然保護課	評価責任者	課長 片岡 正雄	連絡先	3550

1 施策の内容

施策の目標	自然環境と生物多様性の保全により、県民が自然との共生を図ることができる社会をつくる。
これまでの取組み	<p>優れた自然環境の保全に関しては、自然公園等における各種行為の規制、自然保護パトロール等巡視活動、県民総ぐるみの清掃活動、鳥獣保護区設定等による鳥獣の適正管理、公益財団法人動物園協会の協力による傷病鳥獣の保護等を行い自然環境の保全に取り組んでいる。</p> <p>自然とのふれあいの推進に関しては、自然公園や四国のみちにおける休憩所、便所、標識等の整備、自然観察会の開催の外、自然環境の保全に責任を持った持続可能な自然の利用のあり方として「エコツーリズム」を推進している。</p> <p>また、生物多様性の保全に関しては、平成23年12月に「生物多様性えひめ戦略」を策定し、「人と自然が共生する豊かな自然と文化が育まれる地域社会」の実現を目指し、平成24年度に「生物多様性センター」を設置するとともに、市町や団体とも連携し、関連施策を総合的・計画的に推進している。</p>

成果指標名(目標の達成度合いを示す指標)

A	自然公園、四国のみちの利用者数	B	鳥獣保護法違反件数
選択理由	利用者数の推移から、自然環境の保全状況、施設整備の事業効果が計れる外、自然との共生の実現の度合いを知ることができる。	選択理由	違反件数の推移から、自然保護の意識啓発の効果を測定できる。
算定方法	市町調べによる。	算定方法	県が法律違反情報を確認した数(警察からの法律違反被疑事件送致通知書を含む)。
成果と指標の関係	中	指標の種類	フロー
成果と指標の関係	弱	指標の種類	フロー

指標・事業費の推移

区分	成果指標A			成果指標B			事業費			
	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	予算	国費	その他	県費
単位	千人			件			千円			
24年度	5,442	5,513	98.3%	0	21	-	62,735		5,248	57,487
25年度	5,442	5,482	101.3%	0	13	-	133,441		11,488	121,953
26年度	5,442	5,375	98.8%	0	19	-	173,918	54,180	9,240	110,498
27年度 目標値	5,642			0						
最終目標	5,642			0						

2 施策の評価

県の関与の必要性	中	説明	自然公園等、自然の優れた風景地の保護及び鳥獣保護は、法律、条例により県の責務として定められているほか、生物の多様性の保全に関する総合的な施策を策定し、実施することについても、同様に定められている。 また、県内で自然景観、野生動植物の保護等について、民間の活動団体等が個別に実施している実態はあるものの、広域的かつ統一的に実施されている活動は無く、全県を対象に効率的かつ効果的に推進するためには、県の積極的な関与が必要である。			
成果指標A	横這い	説明	自然公園条例等に基づく開発行為等の許認可制度や自然保護活動の継続等により自然の優れた風景地が守られているほか、自然公園施設の適切な管理による利用者の安全確保や利便性の向上のため、石鎚山のトイレ整備等に取り組み、その利用促進やマナー啓発に努めている。 またエコツーリズムの推進や、効率的な予算執行により、利用施設の適切な管理や県民ニーズに対応した施設整備に努めることで、ある程度の向上が可能である。			
成果動向	ある程度向上可能	説明	鳥獣保護員を県内各地に52名設置し、定期的な巡回を実施するとともに、狩猟者への指導や取締りを実施している。 鳥獣保護員には、違反行為の取り締まりのほか、鳥獣保護の普及啓発など広範な対応が求められるが、経費面の問題があるため活動が限られている。事業費を増額し、鳥獣保護員の活動日数を増やし、活動内容の拡充を図れば、ある程度の違反行為の抑制が期待される。 また、自然環境の保全と自然公園等の適正利用等を図るため、自然保護指導員90名を設置し、自然公園内のパトロールと利用者の指導を行っている。			
参考：構成事務事業の評価の平均値	成果動向	2.09	順調・向上	成果向上余地	1.69	ある程度の向上が可能

今後予測される環境変化	・法の題名と目的に「鳥獣の管理」を加えるなどした「鳥獣保護管理法」が施行され、新たに都道府県等が主体となって鳥獣の捕獲等を行う「指定管理鳥獣捕獲等事業」が創設される。(H27.5.29施行)
-------------	---

